

1 対象機関の概要

大学の所在地：盛岡市上田三丁目18 - 8

きれいな水に恵まれ、緑に包まれた北の城下町盛岡。岩手大学は、この人口約28万人の杜の都のほぼ中心地に位置する広大なキャンパスに全学部が集中している。

設立年：本学は、盛岡農林専門学校、盛岡工業専門学校、岩手師範学校及び岩手青年師範学校を母体に、昭和24年5月に、農学部、工学部、学芸学部の3学部をもつ新制大学として設立された。

本学の一般教育（教養教育）は、当初学芸学部によって実施されたが、昭和29年4月からは学内措置で一般教育部を設置し、独立運営された。

昭和41年4月に学芸学部は教育学部と名称変更する一方、一般教育部を発展的に解消して教養部を設置した。

昭和52年5月に教養部を改組した人文社会科学部を設置し、現在に至る。

学部構成（入学定員）：真理を探究する教育研究の場として、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材育成を目指すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを目指す、4学部・5研究科等から成る総合大学である。

なお、平成12年4月からは、全学部とも学部を改組し、教養教育も「教養と専門との一貫教育を目指した全学実施体制」のもとに再出発した。

| | |
|------------|-----------|
| 人文社会科学部 | 入学定員225名 |
| 人間科学課程 | 国際文化課程 |
| 法学・経済課程 | 環境科学課程 |
| 教育学部 | 入学定員250名 |
| 学校教育教員養成課程 | |
| 生涯教育課程 | 芸術文化課程 |
| 工学部 | 入学定員460名 |
| 応用化学科 | 材料物性工学科 |
| 電気電子工学科 | 機械工学科 |
| 建設環境工学科 | 情報システム工学科 |
| 福祉システム工学科 | |
| 農学部 | 入学定員210名 |
| 農業生命科学科 | 農林環境科学科 |
| 獣医学科 | |

学部学生数：5,578名

教員数：444名

（附属学校教員は除く）

2 教養教育に関する考え方

岩手大学は、教養教育と専門教育の調和を基本として、本学の教育目標を次のように設定している。すなわち、それは、(1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性、(2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力、(3) 環境問題をはじめとする複合的な人類学的諸課題に対する学際的な関心、及び(4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う、柔軟な課題探求能力と高い倫理性に基づく役割遂行能力を兼ね備えた人材の育成を目指すということである。そして、教養教育は(1)に対応し、専門教育は(2)に対応するものとして、それぞれ一貫教育の観点から位置づけられている。また、(3)と(4)に関する教育は、いずれも教養教育と専門教育の双方において取り込まれる。

本学においてこのように位置づけられている教養教育は、大学設置基準第19条第2項の後半部分（「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」）に準拠して捉えられているわけであるが、本学は、この場合、特に「専門は狭いけれども深い、教養は広いけれども浅い」というような、従来のステレオタイプの「通念」の影響を排して、教養教育と専門教育のそれぞれの独自の意義を明確にするために、その「深い教養」という文言に対しては、特別の意味づけをほどこしている。

ところで、本学の教養教育は、学生が「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことを自ら培うための教育的支援という全学的な目的の達成を目指し、全学部の学生に向けて全学的な責任のもとに実施されるという意味において、専ら各学部にて特有の目的の達成を目指してそれぞれの学部の学生に向けて学部ごとに実施される専門教育とは峻別される。こうして、教養教育が本学において「全学共通教育」として実施されているのも、そのためである。

また、本学は、基礎学力の強化の課題を担う「基礎科目」に関して、全学部の学生に向けて全学的な責任のもとに実施される「共通基礎科目」と各学部の学生に向けて学部ごとに実施される「専門基礎科目」（学部によっては、「コース基礎科目」等）を区別して、前者を全学共通教育としての教養教育に、後者を学部ごとの専門教育に位置づけている。そして、教養教育に位置づけられている「共通基礎科目」の方は、全学部の学生に共通に必要なとされる基礎学力の強化という、独自の課題を担っている。

3 教養教育の目的及び目標

1. 教養教育の目的及び目標をめぐる従来の反省点

岩手大学は、昭和49年に「本学における学部創設と研究・教育についての基本構想」を立案し、これを「一般教育」(教養教育)を含む、その後の本学の改革の基本方針とした。この基本構想は、「教養人と専門人の育成の調和」や、「総合化と専門深化の調和ある位置づけ」をその趣旨として謳ったものであった。そして、本学は、昭和52年には、特に教養教育の改善を目指して、教養部の改組による人文社会科学部の創設を実現したが、これは、そのような基本構想の具体化の第一歩であった。

こうして、本学の教養教育は、人文社会科学部を担当学部として実施されることになった結果、人的ならびに物的な条件も改善されることとなり、特に学生のニーズに対応したカリキュラムが多くの特長になった。その後、本学における教養教育のカリキュラムの改善の取り組みは、平成3年の大学設置基準の大綱化に基づいて改めて着手され、幾多の成果を見たが、それは、大綱化の趣旨に照らしての取り組みとしては必ずしも抜本的なものではなかった。その大きな原因は、カリキュラムに関するかぎり、教養教育の理念と教育目標が全学的に共有される形で明確に設定されることもないままの取り組みにとどまっていたという点にあった。

2. 教養教育の目的の設定とその基本方針

本学の教養教育は、平成12年度から新全学共通教育として再出発したところであるが、本学が、この再出発に向けての数年間の取り組みの中で、特にカリキュラム改善の前提となるべき、教養教育そのものの理念と教育目標の明確な設定を最優先したのも、そのような反省によるものであった。そして、本学における新全学共通教育としての教養教育の理念は、大学設置基準第19条第2項に準拠して、基本的には「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という点に求められることになった。

本学は、このことを踏まえて、学生が「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことに自ら取り組むための教育的支援を教養教育の目的として設定した。この場合、本学の教養教育の目的が特に「教育的支援」を意図するものとして設定されているが、このことは次のような基本的な方針による。すなわち、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことはもともと各人が自ら取り組む課題であると考えられるところから、学生自身の自主的・主体的な構え(態度・姿勢)

を尊重するという方針が、それである。

本学は、上記の教養教育の目的を具体化するための課題として、以下のような目標を階層的に設定している。なお、本学の教養教育は、「教養科目」と「共通基礎科目」によって二元的に構成されているので、教養教育の目標も、本学の場合には、二元的に設定されている。すなわち、その一方は、「教養科目」の教育目標として具体化されており、他方は、「共通基礎科目」の教育目標として具体化されている。

3. 教養教育の目標(その1:「教養科目」の教育目標)

一方の教養教育の目標としての、「教養科目」の教育目標は、学生が「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」を自ら培うことへの教育的支援として設定されている。これは、「教養科目」全体としての教育目標であり、次の3点がその内容である。

(A) 学生がさまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を広く生かすことのできるような「幅広い教養」を自ら培うことへの教育的支援。

(B) 学生があらゆる分野の日常生活の営みの基盤になっている各種の常識・通念を掘り下げて問い直すことのできるような、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、自然との関係においても人間との関係においても創造的・個性的に生きるうえで必要な「深い教養」を自ら培うことへの教育的支援。

(C) 学生が多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような「総合的な判断力」を自ら培うことへの教育的支援。

「教養科目」は、さらに、主題別に「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」及び「環境教育科目」に区分され、それぞれの教育目標(下位目標)は、次のとおりである。

(a)「人間と文化」の教育目標について

「人間と文化」は、人間と文化の関係を主題とし、主に人文科学における各学問分野の観点から、各種の文化がそれぞれ人間にとっていかなる意味や機能をもっているかという問題を主題として扱う「教養科目」である。この科目では、学生が人間と文化の関係についての課題や、文化との関係における人間観をめぐる課題に触れ、あわせて各学問分野に固有の「ものの見方・考え方」にも触れることを通じて、「教養科目」全体としての上記の教育目標[特に(A)と(B)]の達成を目指す。

(b)「人間と社会」の教育目標について

「人間と社会」は、人間と社会の関係を主題とし、主に社会科学における各学問分野の観点から、各種の

社会とそのさまざまな営みが人間にとっていかなる意味や機能をもっているかという問題を主題として扱う「教養科目」である。この科目では、学生が人間と社会の関係をめぐる課題や、社会との関係における人間観をめぐる課題に触れ、あわせて各学問分野に固有の「ものの見方・考え方」にも触れることを通じて、「教養科目」全体としての上記の教育目標〔特に(A)と(B)〕の達成を目指す。

(c)「人間と自然」の教育目標について

「人間と自然」は、人間と自然の関係を主題とし、主に自然科学における各学問分野の観点から、自然現象や自然科学的思考への理解と、自然と人間のかかわりをめぐるさまざまな問題を主題として扱う「教養科目」である。この科目では、特に、高校における履修内容の多様化により自然科学的な思考法に触れる機会の少ない学生の増加を勘案して、自然科学における多くの学問分野に特有の「ものの見方・考え方」に触れることを通じて、「教養科目」全体としての上記の教育目標〔特に(A)と(B)〕の達成を目指す。

(d)「総合科目」の教育目標について

「総合科目」は、「学生が多角的な『ものの見方・考え方』や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的な判断力を自ら培うことへの教育的支援」という、「教養科目」全体としての教育目標の一つ〔上記の(C)〕に対応する科目である。この科目では、学生が多角的な複眼的な「ものの見方・考え方」が必要なことを自覚し、総合的な知見を習得することに役立つことを目指す。

(e)「環境教育科目」の教育目標について

「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点としても位置づけられる科目である。この科目では「教養科目」全体としての上記の教育目標〔(A)、(B)及び(C)〕に沿い、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目指す。

4. 教養教育の目標（その2:「共通基礎科目」の教育目標）

他方の「教養教育」の目標としての、「共通基礎科目」の教育目標は、次のように設定されている。すなわち、「共通基礎科目は、在学中における教養科目と専門教育科目の学業を進める上で、また卒業後の社会生活を進める上で、全学部の学生に共通に必要な基本的技能やその基礎となる知識を全学生に習得させること」が、「共通基礎科目」全体の教育目標である。

この「共通基礎科目」も、さらに「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」及び「情報科目」に区分され、それぞれの教育目標（下位目標）は、次のとおりであ

る。

(a)「外国語科目」の教育目標について

「英語」は、a)各学部の専門分野の書物を十分に読みこなすだけの高度な読解力を養成し、b)十分な基礎力を身につけていない学生に対しては、英文法の復習を中心に据えながら英語の基礎力を養成し、さらに発展させ、また、c)日常会話や英語のニュースなどを理解できる聴解力を養うとともに、自分の要件や意思を伝えるに十分な表現力を身につけさせることを教育目標とする。

「英語以外の外国語」は、a)日常生活に必要な簡単な会話ができるようにすること、b)外国語の基礎的な文法を修得し、簡単な文章を読むことができる読解力を育成すること、c)日常生活で使う簡単な文章を書く力を育てること、d)外国語学習を通して異文化理解の基礎的知識を得させることを教育目標とする。

(b)「健康・スポーツ科目」の教育目標について

「健康・スポーツ科目」は、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成するとともに、健康とスポーツの科学的方法論についての理解を深め、あわせてスポーツの社会的、文化的価値についても理解を深めることを教育目標とする。

(c)「情報科目」の教育目標について

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を送る上で身につけておくべきコンピュータ及び情報に関する基礎的な概念と技能を教育するために開設された科目であり、コンピュータの仕組みや役割、また、情報処理を適切に行うための基礎的な知識と技能の習得、情報の受発信に必要な基礎的な知識と技能の習得、ならびに情報化社会におけるモラルや社会的な問題点に関する基礎的な知識の習得を教育目標とする。

5. 教養教育の目標の拡充

以上のように、本学は、平成12年度から新全学共通教育として再出発したばかりの教養教育において、学生が「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養すること」に自ら取り組むための教育的支援を教養教育の目的として設定し、この実現のための具体的な課題としては、上記のとおり階層的に下位目標を設定しているわけである。そして、特に「環境教育科目」と「情報科目」はこのたびの再出発に当たっての新設科目であり、二つの下位目標が加えられたので、本学の教養教育の目標は、新たに拡充されたことになる。しかも、特に「環境教育科目」の教育目標は、いっそう本学の教養教育の特色を際立たせるものになっている。

4 教養教育に関する取組

(1) 実施体制

1. 運営組織とその活動内容

岩手大学ではこれまで1学部(人文社会科学部)で全学共通教育(教養教育)を担当してきたが、平成12年4月から全学担当体制に移行した。この全学体制で全学共通教育を実施・運営する組織として、全学共通教育の基本方針と基本計画を審議・決定する「教育協議会」と、その下部委員会として具体的実施方を策定し、全学共通教育を実質的に企画・実施・点検する「全学共通教育運営委員会」(以下「運営委員会」)がある。「教育協議会」は、学務担当副学長(議長)、事務局長、各学部長及び各学部の教員2名などで構成されている。「運営委員会」は、副学長(議長)、各学部教員2名(学部の教務関係委員会委員長を含む)及び「6 選択肢式等設問の回答」2-3(1)の授業科目ごとに組織された分科会(8分科会)の代表各1名で構成されている。

それぞれの分科会は各学部から選出された委員で構成され、全学共通教育科目の授業計画の作成・授業科目の開設及び実施・授業の担当・履修方法を審議・検討する。その結果を運営委員会に諮り、他分科会及び各学部とも調整しつつ決定する。なお、各分科会ごとに責任部局(学部)を指定することで、全学担当体制であっても全学共通教育科目の実施が無責任にならないようにしている。

なお、これらの委員会の庶務を担当するとともに全学共通教育を支援する事務組織として、事務局学生部教務課に共通教育担当の専門職員及び共通教育係がある。

2. 学生による授業評価

人文社会科学部が担当していた平成9年度に、教養教育に対する学生による授業評価を実施した。その結果を教員に示すととともに、クラスミーティングで担任教員が疑問に答えるなどフィードバックした。

平成12年度から実施された全学担当体制下の授業を学生がどう見ているかを知るために、平成13年2月に全学共通教育科目及び専門基礎教育科目に対する学生評価のアンケート調査を実施した。このデータを集計・点検し、今後の全学共通教育の改善に役立てる。

なお、平成11年12月に「学士課程カリキュラムの変容と効果に関する総合的研究」班(事務局広島大学教育研究センター)が実施した全国的な調査(学生からみた大学教育に対する意識調査)にも、岩手大学は全学で協力し、全学共通教育科目及び専門教育科目に関して調査した。これは全学体制に移行する前の基礎的データとなり、今後の共通教育等の改革に生かされる。

3. ファカルティ・ディベロップメント(FD)

運営委員会が主催した全学的FD関連活動の概略を以下に示す。なお、運営委員会のなかに組織したFDワーキング・グループを、平成13年度からは「全学FD委員会」に格上げした。

教養教育に関する講演・座談会(平成11年11月)

学外講師(広島大学・秋田県立大学・立教大学)による講演「各大学における教養教育の取り組み状況」と座談会。参加者は学長を含む教職員約40名。

FD合宿研修会(平成12年9月)

学長を含む教職員約70名の参加で実施(1泊2日)。全体講演2件(運営委員会副委員長「本学の全学共通教育の趣旨とその特質について」、学外講師(千葉大学)「学習の場をどうするか」)、分科会討議(「教養教育の改革で何を指すか」、「授業評価と教員評価」、「大学初期教育について」、「現在の学生像と授業方法論」)及び各分科会からの報告を含む全体討議。

教養教育に係る講演・研修会(平成12年12月)

学外講師(桜美林大学・弘前大学)による講演「教養教育の創造と全学体制の組織」、「弘前大学共通教育における全学担当体制の現状と問題点」。参加者は学長を含む教職員約100名。

講演会「教育業績の評価とは」(平成13年1月)

学外講師(北海道大学)による講演「北海道大学における教育業績の開示」。学長を含む教職員約90名の参加。

これらの実施内容をまとめた冊子をそれぞれ作成し、全教職員に配布して、FDの重要性を理解してもらうとともにFD活動への積極的参加を呼びかけている。その他、他大学の教養教育に関する調査活動や個々の教職員によるFD関連研究会への参加があり、それぞれ報告書としてまとめられている。

4. その他の授業改善施策

成績評価の基準を統一。授業科目ごとにできるだけ統一し、教員による評価のアンバランスを避ける(平成13年度から実施)。

英語科目における少人数クラス及び目的別クラス編成の実施。英語以外の外国語における集中履修コース(半期で4単位履修)の導入。

シラバスの内容改善とホームページ掲載。アンケート調査結果(教養科目の授業選択時の情報源として6割以上の学生がシラバスを挙げた)からシラバスの重要性を再認識。岩手大学では平成10年度からホームページにも掲載。13年度には授業の「目標、概要、計画」欄を充実し、「教室外の学習」項目を加え、学生の自主的学習を支援する。成績評価についてもできるだけ「基準」を明示する。

設備の改善と有効利用。パソコン及び最新の視聴覚機器の充実に努め、授業を支援する。

(2) 教育課程の編成及び履修状況

1. 教養教育の教育課程の編成上の基本方針

岩手大学は、大学設置基準第19条第2項に基づいて教育課程を編成するに当たり、まず、この第2項の前半における「学部等の専攻に係る専門の学芸を教授する」という部分を専門教育の教育課程に対応するものとして受け止め、また、第2項の後半における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という部分を教養教育の教育課程に対応するものとして受け止め、一貫教育の観点から大学教育の基本が教養教育と専門教育の相互連携にあるという把握に立って、本学としての教育目標の達成を目指している。そして、本学は、教養教育の理念も「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という文言に表現されているという見地から、この理念の実現を意図して本学の教養教育の目的を設定するとともに、さらにこの目的の具体化のために教養教育の目標を階層的に設定して、教養教育の教育課程を編成している。

ところで、本学が教育課程を編成するに当たり大学設置基準第19条第2項を上記のように受け止めているということは、本学が教養教育の独自の意義と専門教育の独自の意義をともに重視しているということの意味する。そして、本学は、それぞれの独自の意義を踏まえたうえで、上記のとおり一貫教育の観点から専門教育との相互連携を勘案しながら、教養教育の教育課程を編成することを基本方針としている。

この基本方針は、専門教育と教養教育のそれぞれの独自の意義についての、次のような理解を前提としている。すなわち、専門教育が、もっぱら各学部特有の専門的な目的の達成を目指して、それぞれの学部の学生に向けて実施されるところに独自の意義をもつものに対して、教養教育は、学生が「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことに自ら取り組むための教育的支援という、全学共通の目的の達成を目指して、全学部の学生に向けて実施されるところに独自の意義をもつ。こうして、専門教育がそれぞれの各学部の責任において実施される一方、教養教育が全学的な責任において「全学共通教育」という名称のもとに実施されているのも、そのような理解によるのである。

したがって、本学は、この平成12年度から再出発した教養教育においては、従来の「教養科目」、「共通基礎科目」及び「専門基礎科目」の三元的な編成を改めて、「教養科目」と「共通基礎科目」の二元的な編成に変更した。このことも、上記の基本方針に見合っている。というのも、「専門基礎科目」(学部によっては、

「コース基礎科目」等)は、それぞれの学部特有の専門的な目的の達成を目指して各学部の学生に向けて実施されるという点に独自の意義をもつ専門教育の基礎科目として位置づけられることになったからである。

2. 教養教育の教育課程の編成上の特色

本学の教養教育の教育課程の編成上の特色は、大筋的にはすでに基本方針にも見られるところであるが、この方針に基づく教育課程の編成上の個別的な特色は、おおむね次のとおりである。

その第1は、「教養科目」全体の教育目標が、上記のとおり、学生が「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことに自ら取り組むための教育的支援という、本学の教養教育の目的にかかわる「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」との関連において設定されたうえで、この「教養科目」がさらにこの3項目によってさまざまに性格づけられて5区分されているという点である。

すなわち、「教養科目」は、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」及び「環境教育科目」に区分されているが、そのうちの「人間と文化」、「人間と社会」及び「人間と自然」は、いずれも、「教養科目」全体の教育目標のうちの、特に「幅広い教養」と「深い教養」を自ら培うことへの教育的支援を主眼とする科目として編成されている。この場合、一方の「幅広い教養」に関しては、さまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することができるように、「人間と文化」、「人間と社会」及び「人間と自然」の各授業科目が開講されている。あわせて、他方の「深い教養」に関しては、これらの授業科目が、各種の常識・通念を掘り下げて問い直すことのできるような、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することに資する役割が期待されている。

また、「総合科目」は、「教養科目」全体の教育目標のうちの、特に「総合的な判断力」を自ら培うことへの教育的支援を主眼とする科目として編成されている。さらに、「環境教育科目」は、環境問題という限定されたテーマのもとに、「教養科目」全体の教育目標のうちの「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」のいずれにも関わる科目として編成されている。

第2は、「人間と文化」、「人間と社会」及び「人間と自然」として区分されている「教養科目」の部分が、いずれも、人文科学、社会科学もしくは自然科学におけるさまざまな学問分野の観点から、文化、社会もしくは自然との関連において、直接的にであれ間接的にであれ、何らかの形で人間観の問題に触れることによって、学問的に「豊かな人間性を涵養する」ことに資する科目としても編成されているという点である。実際、これらの「教養科目」の名称が「人間と・・・」と

いう形式によって表現されているのも、まさしくそのためである。

第3は、「教養科目」としての「環境教育科目」が開設されているという点である。この「環境教育科目」は、一部の学科を除くとはいえ、実質的にはほぼ全学必修的な科目として開設されている。これは、言い換えれば、本学の教養教育の教育課程が、「共通基礎科目」としての「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」及び「情報科目」を必修科目としているばかりでなく、「教養科目」についても必修科目を含むものとして編成されているということである。

第4は、「環境教育科目」が、本学における環境教育の出発点としても位置づけられているという点である。すなわち、「環境教育科目」は、上記のように「教養科目」の必修科目であるという点で特徴的であるだけでなく、本学の教育課程全体において専門教育との連携的な役割を期待されているという点でも特徴的な科目として位置づけられている。

第5は、やはり本学の教育課程全体の中での教養教育と専門教育の関連性についての特色であるが、これは、本学の2種類の基礎科目が「共通基礎科目」と「専門基礎科目」(学部によっては「コース基礎科目」等)に区分され、前者が全学部の学生に共通に必要な基礎科目として全学共通教育に位置づけられ、後者がそれぞれの学部の学生に必要な基礎科目として専門教育に位置づけられているという点である。この点の趣旨については、教養教育の教育課程の編成上の基本方針に関連してすでに言及したので、ここでは繰り返さない。

なお、その一方、「共通基礎科目」としての「外国語科目」において、特に「英語」に限って、各学部の専門分野の文献を十分読みこなす読解力の養成を目的とした「専門関連」クラスが編成されている。

3. 授業科目の区分とその履修状況

本学の教養教育は、上記のとおり、大きく「教養科目」と「共通基礎科目」に区分されたうえで、さらに、前者は主題別に「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」及び「環境教育科目」に区分され、後者は「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」及び「情報科目」に区分されている。

一方の「教養科目」については、「人間と文化」は人文社会科学系の各学問分野に関係する15種類の授業科目(各2単位)によって編成され、「人間と社会」は社会科学系の各学問分野に関係する12種類の授業科目(各2単位)によって編成され、さらに「人間と自然」は自然科学系の各学問分野に関係する9種類の授業科目(各2単位)によって編成されている。そして、いずれの授業科目も、1年次からの履修科目である。ま

た、これらの授業科目の名称も、平成12年度からは、学問分野を表示する名称を改めて、主題を表示する名称になっている。この変更は、学問分野を表示していた従来の授業科目名称の場合と比べ、学生がこれらの授業科目を選択するに当たって自分の問題関心に照合することを容易にした。

次いで「総合科目」の授業科目は、「文化の伝統と現代」、「コミュニケーションの現在」、「現代社会をみる視角」、「岩手の研究」、「これからの健康科学」及び「科学技術と現代」の6種類である。いずれも、学生が2年次に履修する選択科目として開講されている。なお、この履修の選択条件は、学部によって若干異なっている。

さらに、「環境教育科目」は、一部の学科を除く、ほぼ全学必修科目である。この授業科目は、各学部の教員層の教育・研究の特色を反映したテーマ(人文社会科学部;「環境を考える」、教育学部;「生活と環境」、工学部;「都市と環境」、農学部;「農村と環境」)のもとに企画・立案され、オムニパス的に担当される。ただし、学生は、所属学部の如何にかかわらず、1年次後期に各自の関心に応じて自由に選択履修できる。

他方の「共通基礎科目」は、いずれも必修科目である。まず「外国語科目」のうち、「英語」の履修については、各学部の専門分野の文献を十分に読みこなす読解力の養成を目的とした「専門関連」、ネイティブスピーカーによる「英会話」等目的別のクラス選択ができる。また「英語以外の外国語」の履修については半期で完結する集中型コースを一部導入している。

次いで「健康・スポーツ科目」の場合、通常の授業のほか、本県の地理的特性を生かし、シーズン・スポーツの集中授業(夏期スポーツとしてのマリンスポーツ、及び冬期スポーツとしてのスキーとスケート)が行われている。

さらに「情報科目」の場合は、コンピュータや情報に関する基礎的な概念や技能についてばかりでなく、情報化社会におけるモラル等についての履修も行われている。特に、コンピュータの技能の習得に関しては、T・A制度の導入により、理解度・達成度に応じたきめ細かな指導が可能になっている。

また、学生が教養教育に関して自分の関心に応じてできるだけ自由に履修することも望ましいという趣旨から、「教養科目」と「共通基礎科目」の枠に全く制約されないで柔軟に選択履修することを可能にする自由選択制が採用されている。

(3) 教育方法

1. 教育方法の基本方針

単位制度の実質化を教育方法の基本方針とする。

この基本方針を具現するため、カリキュラムの編成と実施、シラバスの使用、教育環境の整備、上限単位の設定、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を行う。

科目分科会において、教育目的・目標に沿ったカリキュラムを編成する。授業担当者は、教育目標に沿った授業計画を立て、それに沿った授業を行う。授業科目の学習は、教室内学習及び教室外学習から成る。そのための学習環境を用意する。シラバスに、教育目標、授業計画、成績評価の方法と基準、教室外学習への指針、参考資料名等を記し学生に配布するとともにホームページ（HP）に載せる。授業及び教室外学習を含めた総時間数を適正ならしめるため各期に取得できる単位に上限を設ける。（ただし、成績優秀者には高い上限値を認める）教育方法の適正化及び技術水準の維持を図るため各種FDを実施する。

2. 教育方法の諸施策

(1) 授業形態

授業形態は、講義、演習、実技を主とするが、パネルディスカッションや野外観察など工夫された形態を併用することがある。内容が総合的な授業科目ではオムニバス方式をとっている。

(2) 学習指導法

教養教育に対する理解を深めるため、授業に先立って教養教育の目的と意義について説明している。

授業においては、教養科目及び共通基礎科目のそれぞれにおいて、科目全体の教育目標及び各科目の教育目標の双方に即した授業展開を図っている。

オムニバス方式の授業では、全体に筋が通るよう、授業担当者間で事前によく話し合うこととしている。

(3) 学習環境

適正規模クラス実現の問題がある。多人数クラスは教育効果から言って望ましくなく、クラス規模の適正化は検討を要する課題である。

岩手大学は騒音が少なく良好な自然環境にあるが、教室内の温湿度・換気の調節が十分でない所があり、改修等により改善を図っている。

教育設備については、机、イス、黒板、スクリーンといった教室の基本設備の充実はもとより、近年著しい発達を見せている多様な情報技術（IT）設備の充実を図り、教室内外における学習環境を整えている。各所に配されているパソコンから、だれでも、HPを通して、シラバスをはじめとする授業科目に関する情報、図書館蔵書の検索や貸出情報等、学習に必要な多様な

情報を効率よく得ることができるようにするために、学生には入学時にネットのユーザーIDを全員に自動発行している。授業担当者が授業内容を補充してHPに載せることにより、ネット利用による学習の便を図っている。視聴覚媒体もスライド・OHP・ビデオに加え、近年は液晶プロジェクタ・パソコンといったデジタル方式が導入され、プレゼンテーションのレベルアップが図られている。これら教材の制作にはノーハウと多大な労力を要するので支援態勢及び教材制作機器のアップデートな充実に向けて努力している。

教室外学習のための施設として附属図書館、総合情報処理センター及び端末室、学生センター、留学生センターがある。附属図書館は、平成12年度に自習室、演習室など学習スペースが拡充され、パソコンが40台導入され、また、リクエスト制度により学生の学習ニーズに応える態勢をとっている。情報処理センターは平成13年度から総合情報処理センターになり、また、センター外にも各学部等に端末室があって、学生用パソコンが全学で計560台あり、科学技術計算、情報処理学習、コンピュータを使用した授業はもとより、端末を使用した教室外学習の便のさらなる充実が図られた。平成12年度に学生センターにパソコンが20台設置された。学内措置により留学生センターが平成13年度に設置され、日本語の学習資料、各分野の洋書、パソコン、液晶プロジェクタ、及び相談態勢を整え、岩手大学への留学生および外国の大学への留学に対応している。

学生から要望を吸い上げる機会を設け、対応している。そのためクラス担任制度をとり、また、クラス懇談会、アンケート調査を行っている。

教室の場所が容易に分かるように建物名と教室名の表示を工夫する等、新入生にもなじみやすい学習環境を整えるよう努めている。

(4) 成績評価法と基準

理解度及び出席状況により成績を評価する。そのため、試験（中間と期末）、課題レポート、レスポンスカードを併用する。得点を総合し標語を得るが、授業担当者間で成績のアンバランスが生じないように配慮している。

(5) その他

科目分科会が中心となって教養講座を実施し、学生に幅広いテーマ及び講師層に触れる機会を提供している。

シラバスの充実により不本意履修の防止を図っている。

5 変遷及び今後の方向

1. 本学の教養教育の変遷

岩手大学は、昭和24年の発足と同時に、「一般教育」（以下「教養教育」という。）を開始した。当初の教養教育は学芸学部の中の「一般教育部」によって実施されたが、本学は、教養教育の充実を図るため、昭和29年に学内措置によって一般教育部の独立運営を実現した。このような一般教育部の独立運営による教養教育の実施は、当時、全国的にも例を見ないものとして注目された。次いで本学は、その後の実績にもとづき、昭和41年にはそれまでの一般教育部を発展的に解消することによって教養部の独立を実現するに至った。

さらに本学は、昭和49年に「本学における学部創設と研究・教育についての基本構想」を立案し、これをその後の本学の改革の基本方針とした。この基本構想は、「教養人と専門人の育成の調和」や、総合化と専門深化の「調和ある位置づけ」をその趣旨として謳ったものであった。そして、本学は、昭和52年には、その改革の第一歩として、教養部を改組することにより人文社会科学部を創設し、教養教育の担当学部とした。

その結果、本学の教養教育の人的ならびに物的な条件が改善され、特に学生のニーズに対応したカリキュラムが多くの特長になった。その後、本学は、平成3年の大学設置基準の大綱化に伴い、あらためて教養教育のカリキュラムの改善に取り組み、幾つかの成果の実現を見たものの、それは、大綱化の趣旨に照らした取り組みとしては必ずしも抜本的なものとは言えなかった。その大きな原因は、一つには、やはり教養教育の理念と教育目標が全学的に共有される形で明確に設定されることもないままの取り組みにとどまっていたという点にあった。

そして、本学の教養教育は、このような反省のもとに、一方においてカリキュラムに関しては、その改善の前提となるべき、教養教育そのものの理念と教育目標の明確な設定を最優先することにより、また他方において実施体制に関しては、つとに教養部の改組によって創設された人文社会科学部を本学の教養教育の担当学部としてきたことを改め、新たに全学担当体制を立ちあげることにより、平成12年度から新全学共通教育として再出発した。

2. 本学の教養教育の再出発の理由

それにつけても、教養教育に対する本学の取り組みは、特に実施体制に関するかぎり、昭和29年からの一般教育部の独立運営の場合にしても、昭和52年からの教養部の改組による人文社会科学部の創設の場合にしても、かなり先進的なものとして注目されたのである。

ところが、人文社会科学部を担当学部とする旧来の教養教育の実施体制は、確かに本学の教養教育の責任の明確化という点では積極的な機能を果たしたけれども、その反面、大学教育における教養教育の位置づけや教養教育と専門教育の関係についての全学的な論議を不活発なものとし、結果として、両者の分離・固定化という消極面を助長していたことも事実であった。ちなみに、このことは、本学における従来のカリキュラム改善において、教養教育の理念と教育目標が全学的に共有される形で明確に設定されることもないままの取り組みにとどまった一因でもある。

こうして、平成12年度からの本学の教養教育が、一学部を担当学部とする実施体制から全学部教員の担当による実施体制への移行によって再出発したのは、そのような反省によるものであった。しかも、本学における教養教育の全学担当体制への移行は、大学設置基準の大綱化以降の事例としては、きわめて著しく後発的なものになってしまった。もとより、この遅れは、上記の反省の遅れに起因する。

以上のように、本学は、遅滞きながら、全学的にそのような根底的な反省に達したことに基づき、従来の教養教育を全面的に見直し、平成12年度からの再出発に至ったわけである。しかしながら、これも、カリキュラムと実施体制の両面において、ようやく「全学共通教育」の名称に値する形式的な条件を整えたということにとどまる。

3. 本学の教養教育の今後の方向

したがって、本学における全学共通教育としての教養教育の今後の方向は、要するに、そのような条件整備が単にいわゆる「タテマエ」と化して、形骸化することのないように、カリキュラムの面でも実施体制の面でも、それらの条件を生かして実質化を進めるといった方向にほかならない。そして、この意味における教養教育の実質化という方向に前進することこそが、全学的に共通の関心と責任・協力のもとで引き続き取り組まれるべき今後の課題である。

それにつけても、本学が、上記のとおり、当初から教養教育に対してきわめて積極的な取り組みを重ねてきていることに鑑み、今後ともそのような貴重な全学的伝統を生かしながら、平成12年度から再出発したばかりの教養教育の実質化に取り組むことが望まれると言えよう。しかも、上記の反省は、本学における従来の教養教育の見直しの起点であっただけに、その反省内容は、今後の喫緊の課題としての教養教育の実質化の取り組みにおいても、絶えず想起されることが必要である。

6 選択肢式等設問の回答

2-2 教養教育と専門教育の基本的な関係

2

・「5」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

2-3 授業科目区分

(1) 一般教養教育の授業科目区分を記入してください。

| 授業科目区分名 | 学部名 |
|---------------------|------|
| 人間と文化（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 人間と社会（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 人間と自然（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 総合科目（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 基礎教育科目（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 外国語科目（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 健康・スポーツ科目（全学共通教育科目） | 全学共通 |
| 情報科目（全学共通教育科目） | 全学共通 |

(2) 一般教養的内容と専門的内容を併せ持つ教育の授業科目区分を記入してください。

| 授業科目区分名 | 学部名 |
|---------|-----|
| 該当なし | |

(3) 専門教育の授業科目区分を記入してください。

| 授業科目区分名 | 学部名 |
|---------------|---------|
| 学部共通科目 | 人文社会科学部 |
| 課程科目 | 人文社会科学部 |
| コース科目（特別研究含む） | 人文社会科学部 |
| 前期教育科目 | 教育学部 |
| 教職専門科目 | 教育学部 |
| 教科専門科目 | 教育学部 |
| 所属専門科目 | 教育学部 |
| 課程共通科目 | 教育学部 |
| コース基礎科目 | 教育学部 |
| コース発展科目 | 教育学部 |
| 選択科目 | 教育学部 |
| 卒業研究 | 教育学部 |
| 専門基礎科目 | 工学部 |
| 工学基礎科目 | 工学部 |
| 学科専門科目 | 工学部 |
| 学科内共通科目 | 工学部 |
| 卒業研究 | 工学部 |
| 学部内共通科目 | 工学部 |
| 学部専門基礎科目 | 農学部 |
| 学科共通科目 | 農学部 |
| 課題科目（卒業研究含む） | 農学部 |
| 課外科目 | 農学部 |

4-1-2 一般教養に関する教育の実施組織

(1) 1

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

(2) 5

・「2」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

・「5」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

全学部の代表からなる教育協議会、全学共通教育運営委員会及び授業科目区分に組織された8つの分科会のもとで全学部の教員が全学共通教育科目を担当している。また、授業科目区分毎に責任部局を定めている。

4-1-3 学生による授業評価やファカルティ・ディベロップメントの実施状況

(1) 7

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

平成9年度に人文社会科学部が担当していた教養教育に対する学生による授業評価を実施した。また、平成13年2月には全学共通教育科目及び専門基礎科目に対する学生による授業評価を実施し、その結果を集計・点検を行い今後の授業科目の改善に役立てる予定である。

(2) 1

・「6」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

4-2-2 教育課程における教養教育の内容

| 要素 | 項目 |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 高い論理性を持って判断し行動できる能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 高い責任感を持って判断し行動できる能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 3. 自らの文化に対する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 世界の多様な文化に対する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 5. 外国語によるコミュニケーション能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 6. 外国語の習得を通じた外国文化の理解 | <input type="checkbox"/> |
| 7. 2つ以上の外国語の習得 | <input type="checkbox"/> |
| 8. 論理的な文章を書く能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 9. プレゼンテーション能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 10. 討論能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 11. 課題発見能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 12. 情報リテラシーの向上 | <input type="checkbox"/> |
| 13. 科学リテラシーの向上 | <input type="checkbox"/> |
| 14. 数理リテラシーの向上 | <input type="checkbox"/> |
| 15. 人文各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | <input type="checkbox"/> |
| 16. 社会科学各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | <input type="checkbox"/> |
| 17. 自然科学各専門の基礎的な知識及び方法の習得 | <input type="checkbox"/> |
| 18. 諸科学を超えた学際的な知識の習得 | <input type="checkbox"/> |
| 19. 芸術鑑賞能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 20. 芸術的な表現能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 21. 身体運動能力の向上 | <input type="checkbox"/> |
| 22. 健康な生活を送る能力の向上 | <input type="checkbox"/> |
| 23. 環境問題に対する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 24. 国際問題に対する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 25. ジェンダー問題に関する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 26. 社会問題に関する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| 27. 職業観の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 28. 人間関係能力の向上 | <input type="checkbox"/> |
| 29. 自己見解の援助 | <input type="checkbox"/> |
| 30. ボランティア意識の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 31. 大学における学習への適応能力の育成 | <input type="checkbox"/> |
| 32. 高等学校程度の内容の補習教育の実施 | <input type="checkbox"/> |
| 33. その他 | <input type="checkbox"/> |

・「33」を選択した場合、以下の欄に簡潔に記述してください。

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| 自然とのふれあい 地域性に対する理解の促進 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> |

| 特に組み込んでいない | 組み込む方向で検討中である | 組み込んでいない | 組み込んでおり、特に重点を置いている |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

4-2-3 一般教養に関する教育の授業科目区分と卒業要件との関係

(1) 設問2-3で(1)に分類した授業科目区分及び卒業要件単位数を記入してください。

| 授業科目区分名 | 学部名 | 単位数 |
|--------------|---------|------|
| 人間と文化 | 人文社会科学部 | 6~12 |
| | 教育学部 | 4~6 |
| | 工学部 | 2~4 |
| 人間と社会 | 農学部 | 6 |
| | 工学部 | 6~12 |
| | 農学部 | 6~8 |
| 人間と自然 | 工学部 | 2~4 |
| | 農学部 | 6 |
| | 教育学部 | 6~12 |
| 総合科目 | 農学部 | 4~6 |
| | 工学部 | 0~2 |
| | 教育学部 | 0~2 |
| 環境教育科目 | 教育学部 | 0~2 |
| | 工学部 | 0~4 |
| | 農学部 | 2 |
| 外国語科目 | 工学部 | 0~2 |
| | 農学部 | 10 |
| | 教育学部 | 8 |
| 健康・スポーツ科目 | 工学部 | 8 |
| | 農学部 | 8 |
| | 教育学部 | 2 |
| 情報科目 自由選択 | 工学部 | 1 |
| | 教育学部 | 4 |
| | 農学部 | 2 |
| | 工学部 | 7 |
| | 農学部 | 6 |
| | | |

(2) 設問2-3で(2)に分類した授業科目区分及び卒業要件単位数を記入してください。

| 授業科目区分名 | 学部名 | 単位数 |
|---------|-----|-----|
| 該当なし | | |

(3)

1. 卒業要件単位数を記入してください。

| 学部名 | 単位数 |
|----------------------|-----|
| 人文社会科学部 | 126 |
| 教育学部 | 125 |
| 学校教育教員養成課程(小・中学校2-3) | 131 |
| 学校教育教員養成課程(障害児教育2-3) | 124 |
| 生涯教育課程、芸術文化課程 | 125 |
| 工学部 | 125 |
| 農学部 | 125 |
| 農業生命科学科、農林環境科学科 | 125 |
| 獣医学科 | 182 |

2. 一般教養に関する教育の授業科目区分の卒業要件単位数を記入してください。

| 学部名 | 単位数 |
|---------|-----|
| 人文社会科学部 | 4.4 |
| 教育学部 | 3.2 |
| 工学部 | 2.8 |
| 農学部 | 3.4 |

3.(1)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

| 学部名 | 単位数 |
|---------|-----|
| 人文社会科学部 | 4.4 |
| 教育学部 | 3.2 |
| 工学部 | 2.8 |
| 農学部 | 3.4 |

4.(2)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

| 学部名 | 単位数 |
|------|-----|
| 該当なし | |

4-2-4 一般教養に関する教育の授業科目の履修要件単位数を記入してください。

(1) 2

・「4」を選択した場合、以下の欄に履修年次を記入してください。

| 履修年次 |
|------|
| 該当なし |

(2)

| 授業科目区分名 | 授業科目名 |
|----------------------|-------|
| 時間割枠はあるが指定している科目はない。 | |

4-2-5 一般教養に関する教育の授業科目の履修状況

(1) 平成12年度

| 授業科目区分名 | 最小値 (人) | 平均値 (人) | 最大値 (人) |
|---------|------------|------------|------------|
| 人間と文化 | 16 | 145.5 | 397 |
| 人間と社会 | 13 | 141.0 | 367 |
| 人間と自然 | 1 | 62.9 | 230 |
| 総合科目 | 10 | 101.7 | 245 |
| 環境教育科目 | 101 | 167.0 | 257 |
| 外国語科目 | 2 | 38.7 | 136 |
| 健康・スポーツ | 92 | 197.5 | 266 |
| 情報科目 | 30 | 41.5 | 49 |

(2) 平成12年度

< 1) 分母を増修登録した学生数とした場合 >

| 授業科目区分名 | 最小値 (%) | 平均値 (%) | 最大値 (%) |
|---------|------------|------------|------------|
| 人間と文化 | 34.8 | 82.0 | 96.5 |
| 人間と社会 | 64.6 | 77.9 | 89.6 |
| 人間と自然 | 53.4 | 79.5 | 92.5 |
| 環境教育科目 | 71.6 | 83.9 | 90.6 |
| 外国語科目 | 20.9 | 75.4 | 100.0 |
| 健康・スポーツ | 96.7 | 97.5 | 98.3 |
| 情報科目 | 94.9 | 94.9 | 94.9 |

< 2) 分母を成績判定を行った学生数とした場合 >

| 授業科目区分名 | 最小値 (%) | 平均値 (%) | 最大値 (%) |
|---------|------------|------------|------------|
| 人間と文化 | 34.8 | 82.0 | 96.5 |
| 人間と社会 | 64.6 | 77.9 | 89.6 |
| 人間と自然 | 70.9 | 83.6 | 92.5 |
| 環境教育科目 | 71.6 | 83.9 | 90.6 |
| 外国語科目 | 76.4 | 93.1 | 100.0 |
| 健康・スポーツ | 96.7 | 97.5 | 98.3 |
| 情報科目 | 94.9 | 94.9 | 94.9 |

(3) 平成12年度

| 平均値 (単位) | 最大値 (単位) |
|-------------|-------------|
| 45.1 | 59 |

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

| 人数区分 | 授業科目区分名 | 授業科目名 |
|---------------------|---------|-------|
| 1. 20名以下 | | |
| 2. 21名以上 ～50名以下 | 外国語科目 | 全体 |
| 3. 51名以上 ～100名以下 | | |
| 4. 100名超 | | |

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1)

| |
|---|
| 1 |
|---|

・「2」を選択した場合

| 授業科目区分名 |
|---------|
| 該当なし |

・「3」を選択した場合

| 学部名 | 授業科目区分名 |
|------|---------|
| 該当なし | |

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

(2)

1, 3, 4, 5, 6

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし

(3)

2

(4)

1, 3

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

該当なし